

心に火を灯す計画訪問より

令和元年度は
85校園を訪問!

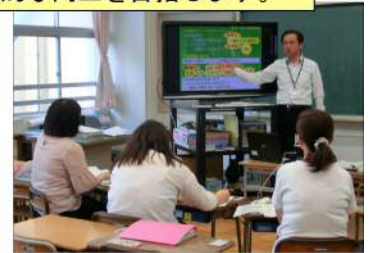
学校支援課では、今年度も全市の約半数の学校園への学校訪問を実施しています。

当該学校園では、訪問要項や学習指導案等の準備を確実に進め、どの学校園でも支持的風土の醸成を図り、子どもの学ぼうとする心に火を灯す質の高い授業づくりに向けて真摯に取り組んでいます。

「学習課題」「まとめ」「振り返り」は浸透してきています。さらに質的な向上を目指します。



計画訪問の分科会では、新潟市の授業づくりを基に各校園の研究内容と方法、有効な働き掛けなどを協議しています。当課では、深い学びのある授業を実現させるための協議となるよう支援をしています。その分科会では、次のような授業づくりのポイントが話し合われています。



かかわり合い



子ども同士のかかわり合いや学び合いは、対話を目的とするのではなく深い学びのための手段として捉えています。授業のねらいを基に学習課題設定後の対話の必然性について検討する必要があります。教師は、子どもの思考に寄り添いながら対話的で深い学びのある授業の実現を目指しましょう。

子どもがかかわり合いながら知識及び技能を身に付けていくためには、教科や領域の特質、本時のねらいとまとめ、子どもの実態に合わせ、単元内での授業のつながりを意識した数時間を貫く学習課題を設定するなどの単元構成も効果的です。

授業のつながり



全体会では、当課から学校園で意識して取り組んでほしい重点内容として、次のようなことを伝えています。

資質・能力の育成



今回の学習指導要領の改訂では、資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理しています。教育課程の編成においても子どもや地域の実態を基に全教職員で知恵を出し合い、育てたい資質・能力を明確にすることがポイントとなります。

教科横断的な学習

明確にした資質・能力を育成するためには、教科横断的な学習や単元のまとまりを意識した学習を構成する必要があります。そのために単元配列表を活用して単元間や教科間の関連を線で結ぶなどして可視化することも有効です。



to be continued...